

速報！未来の売り場のヒントはここに！

中国における無人コンビニの急展開について

2017年9月22日 杜雨軒

2016年12月にアメリカで発表された『Amazon Go』は全世界で大きな注目を集めた。しかし、技術的難易度が高いため、本格的な展開にはまだ至っていない。一方、中国でも無人店舗での販売に関する研究をしている企業は多くあり、大都市で無人コンビニが登場し、今急速に拡大している。中国での開発の特徴はその驚異的な『スピード』だ。今回のレポートでは中国の無人コンビニの現状、成長の背景及びそこから見えてきた課題についてまとめる。

■ 中国での展開事例

現在、中国国内に展開している無人コンビニを大きく三つに分けた(図1)。iiMedia Research(艾媒咨询)から発表された『2017中国無人零售商店市場研究報告(2017年中国無人小売り商店の市場研究報告書)』によると、中国では十数社が新規参入し、2017年の売上は389.4億元(約6,400億円)の見込みであることが示されている。

図1: 中国における代表的な無人コンビニの事例

決済形態	無人コンビニの名称	主に採用している技術
自動決済 (入退店ゲートのセンサー)	Tao Café(事例①)	人工知能、顔認証と音声認証 自社の電子マネーシステムなど (『Amazon Go』と似たシステム)
セルフ決済 (RFIDタグとアプリの利用)	Bingo Box(事例②) Easy Go(事例③)	RFID技術、顔認証 スマートフォンでの電子決済アプリ
タッチパネルのセルフ決済 (QRコードとアプリの利用)	F5未来商店 小e微店	QRコードスキャン スマートフォンでの電子決済アプリ

事例①『淘珈琲』(Tao Café) ネット通販大手アリババ(阿里巴巴集団)の実験店舗

今年7月8～12日、アリババが杭州で開催したイベントで、無人販売のコンセプトショップ『淘珈琲』(Tao Café)が、期間限定でオープンした。カフェも併設した約200㎡の広さに50人程度が一度に入ることができる。アリババ自社の人工知能とデータ技術を利用したオフライン(実店舗)でレジなし自動決済できるという次世代のショッピングのカタチを若い世代に発信している。現在、実店舗化は未定。



事例②『Bingo Box』ベンチャー企業が開発した24時間営業

ベンチャー企業の中山市資哥网络科技有限公司は、今年6月に上海の高級住宅地で、簡単に移動できる無人コンビニ『Bingo Box』を開発した。24時間365日の営業で高級マンションに住む人にクオリティと利便性が高い商品とサービスを提供しようと挑戦している。ただし、金額精算のミス、店内の食べ物が高温になり溶けるというトラブルが起き、一時閉店。このようなトラブルはあるものの、『Bingo Box』は広州と上海で合計10店舗を運営しており、「1年以内に5,000店舗」という強気の計画だ。



事例③『Easy Go』若い起業家の挑戦

今年6月、80後(1980年代生まれ)の若き女性起業家、王牧牧さんはIT系の仲間と一緒に広州の複合施設の中でテスト版の無人コンビニ『Easy Go』の1号店をオープンした。起業の目的は、従来型のコンビニと競合するのではなく、新しい技術と仕組みで、もっと新しい買い物体験を提供したいということだ。今後の店舗を展開するために、王さんは店内で問題点を抽出している。さらに、現在2号店を計画し、3ヶ月で100店舗を出店予定。1号店の運営経験をもとに、次の店舗の面積は約15㎡、建物のコストは約8万元(約130万円)。1店舗の商品は約500SKU。4人のスタッフで、30店舗の運営ができる想定。毎月の各店舗の売上は8万～10万元(約130万～170万円)を見込んでいる。

■ 急増の背景

1. 電子決済の普及と定着

2016年スマートフォンでの電子決済は157.5兆元(約2,500兆円相当) 前年比45.6%アップ※

中国では買い物、飲食店及びタクシーなど様々なシーンでスマートフォンでの電子決済が利用できる。支払いだけでなく、スマートフォンでの電子決済が個人間の送金、シェアリング自転車の利用など、人々の生活に欠かせないツールとなっている。

※データ出典：中国人民銀行が今年3月に発表した資料『2016年支付体系運行総体情況』より、円換算(1中国元=16円)

2. 国家戦略『互聯網+』(インターネットプラス)

インターネットと従来産業を結びつけ、従来の産業の新たな発展の推進を目指す

2015年3月、中国の国会に相当する全国人民代表大会の政府活動報告において、李克強首相は実行するプランとして『互聯網+ 行動計画』を提出した。

3. 人件費、家賃の上昇

都市部の民間企業の人件費はこの5年で1.7倍に 不動産価格の高騰で家賃も値上がり

■ 課題

1. システムトラブルの回避

中国無人コンビニでは技術的なトラブルが頻繁に発生。① 様々な商品をまとめてスキャンする際に、一部の商品の決済が漏れる。② 電子決済が正しく作動しない。③ ほかの客の商品が誤認識されてしまう。④ 雨天時や液体を購入する場合、RFIDのセンサーが鈍りがちになる。以上のような技術課題を完全に解決できるまでにはまだ時間がかかる。

2. セキュリティ体制の確立

各無人コンビニでは盗難や不正などの犯罪対策をしている。ただし、中国社会には大きな格差があるため、様々な利用者に対する厳格な管理・監督が難しい。今はまだ主に単価が安い飲料や菓子類を扱っているが、今後より幅広く対応するには対策が必要だ。

3. 既存小売店との競合

無人コンビニは既存小売店と競合する可能性があるため、雇用減少への懸念の声は出ている。一方、無人コンビニで取扱いにくい商品(例えば、スーパーや小売専門店で買える生鮮三品、惣菜)に対し、小売店が生き残るのではという見方もある。いずれにしても、労働市場に大きなインパクトをもたらすことは間違いない。

雨軒's
Discovery Channel

POINT: 次世代の買い物体験の提供!

斬新な買い物の体験を提供している中国での無人コンビニは、私達に未来の売り場のヒントを与えている。このような店舗開発はアメリカでの『Amazon Go』と同じタイミングで進行中。『Amazon Go』は完全な自動決済を目指しているが、中国では様々なアプローチで中国ならではの無人コンビニを実現している。それぞれに多くの課題はあるが、その中を突き進み、積極的に拡大しようとしている! 日本ではどんな新しい買い物体験を提供する売り場が生まれるだろうか? これから、楽しみだ。